



# MDX-E300

MDレコーダー



MDLP



このたびは、ヤマハMDレコーダーMDX-E300をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。MDX-E300の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管してください。

#### 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

## 取扱説明書

# 安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

## 絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。  
たとえば△は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。  
たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。  
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がある。
  - 煙が出る。
  - 内部に水や異物が混入した。
- そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
  - ステープルで止めない。
  - 加工をしない。
  - 熱器具には近づけない。
  - 無理な力を加えない。
- 芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
  - 加湿器を過度にきかせた部屋
  - 雨や雪、水がかかるところ
- 水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。  
修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
  - じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
  - あおむけや横倒しには設置しない。
  - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- (少なくとも本機の左右、上、背面各2.5cm以上離して設置してください。)

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**電池を充電しない。**

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

**本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。**

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

**必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。**

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

**電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。**

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

必ず行う

**本機のディスクの挿入口にもものを入れたり、落としたりしない。**

火災や感電の原因となります。

禁止

**本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうそくなどを置かない。**

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

禁止



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

**不安定な場所や振動する場所には設置しない。**

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

**直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。**

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

**電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。**

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

**長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。**

火災や感電の原因となることがあります。



接触禁止

**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。**

感電の原因となることがあります。



禁止

**電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。**

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

**移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。**

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

**長時間音が歪んだ状態で使用しない。**

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

**大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。**

聴力障害の原因となることがあります。


**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

**電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。**

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。**

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。**

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。**

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**ほこりや湿気の多い場所に設置しない。**

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

**手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。**

感電の原因となることがあります。



注意

**本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。**

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



禁止

**ディスクの挿入口には手を入れない。**

本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因となることがあります。



必ず行う

**電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。**

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



## 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

**電源プラグを差し込んだときゆりみがあるコンセントは使用しない。**

感電や発熱・火災の原因となることがあります。



禁止

**ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しない。**

ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。



注意

**環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。**

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

**薬物厳禁**

**ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。**

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

**年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。**

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。



禁止

**レーザー光源をのぞき込まない。**

レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。

# おもな特長

- ミニディスクデジタルオーディオシステム
- デジタルオプティカル入力(2系統)／出力端子装備
- サンプリングレートコンバーター内蔵
- 編集機能
- システム接続によるシンクロ録音・タイマー録音機能
- デジタル録音レベル調節
- MDLP対応

# もくじ

<b>おもな特長</b> .....	<b>1</b>	<b>MDの録音</b> .....	<b>12</b>
<b>付属品について</b> .....	<b>2</b>	録音レベルを調節する .....	13
<b>MDの使用上の注意</b>		録音中に曲番を付ける .....	13
MDの取り扱いかた .....	2	ミュージックシンクロ録音する .....	14
<b>各部の名称</b>		録音モードを設定する .....	14
フロントパネル .....	3	録音する音をモニターする .....	15
ディスプレイ .....	3	録音した内容を保護する .....	15
リモコン .....	4	<b>MDの編集</b> .....	<b>16</b>
<b>ご使用のまえに</b>		曲を消す (Erase 機能) .....	17
リモコンについて .....	5	曲を移動する (Move 機能) .....	18
システム接続する .....	6	曲をつなげる (Combine 機能) .....	18
お手持ちのオーディオ機器と接続する .....	7	曲を分ける (Divide 機能) .....	19
<b>MDの再生</b> .....	<b>8</b>	編集を取り消す (Undo 機能) .....	19
選曲する .....	8	TOC を書き込む (TOC write 機能) .....	19
曲の聞きたい部分を探す .....	8	録音の空きを作る (FRA check 機能) .....	19
表示を切り換える .....	9	<b>曲名やディスク名を付ける</b> .....	<b>20</b>
順不同に聞く (ランダム再生) .....	10	<b>ご参考</b> .....	<b>21</b>
繰り返し聞く (リピート再生) .....	10	デジタル録音のルール (シリアルコピー マネージメントシステム) .....	21
聞きたい部分を繰り返し聞く (A-B リピート) .....	10	システム上の制約について .....	22
聞きたい曲を好きな順に聞く (プログラム再生) .....	11	メッセージ表示一覧 .....	23
		故障かな?と思ったら .....	24
		仕様 .....	25

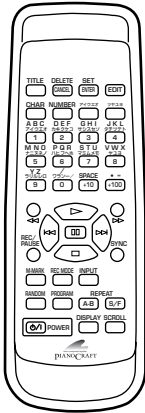
# 付属品について

はじめに、次のことをお確かめください。

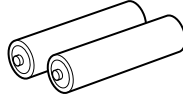
1. 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか。
2. 付属品はすべてそろっていますか。

## <付属品>

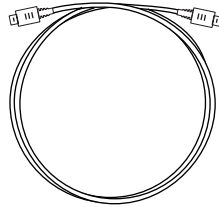
リモコンx1



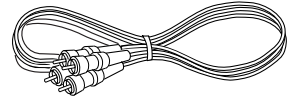
単3乾電池x2



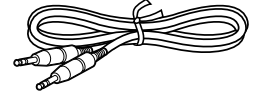
光ファイバーケーブルx1  
(長さ：0.6m)



ステレオピンケーブルx2  
(長さ：1.0m)



システム接続ケーブルx1  
(長さ：1.0m)



## MDの使用上の注意

### 音量を調節するとき

MDはアナログカセットテープに比べ、非常に雑音が少なくなっています。アナログカセットテープのときのように音のない部分で雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大音量が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。演奏を始める前には音量を必ず小さくしておきましょう。

### ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



### 結露について

寒いときにお部屋の暖房を入れた直後など、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは、正常に動かないばかりでなく、MDや部品もいためてしまいます。本機をご使用にならないときは、MDを取り出しておくことをお勧めします。

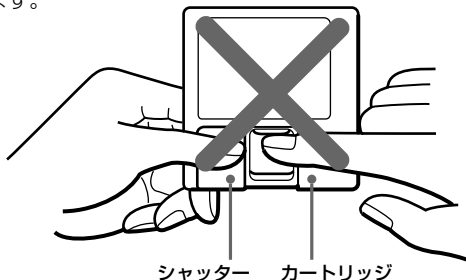
結露が生じたときは、電源を入れたまま、しばらくの間(約20~30分)放置し、再度電源を入れ直してからご使用ください。もし何時間たっても正常に動作しない場合は、ヤマハホットラインサービスネットワークにご連絡ください。

## MDの取り扱いかた

MDはカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。

### 内部のディスクに直接触れないでください

シャッターを無理に開けようとすると、こわれることがあります。



### 置き場所について

直射日光が当たるところなど温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。

### 定期的にお手入れを

カートリッジ表面についたホコリやゴミを乾いた布でふき取ってください。

### 挿入途中のMDの取り出しかた

挿入途中でMDを取り出す場合は、一度挿入してから△ボタンを押して取り出してください。

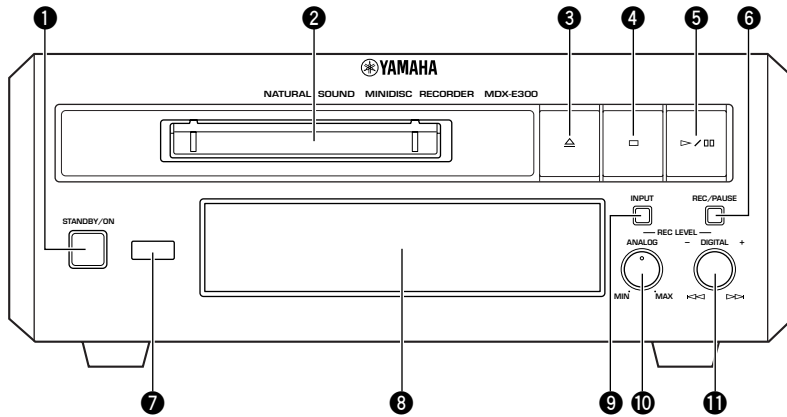
### ご注意

- ロック機構が働くと、挿入途中では取り出せません。



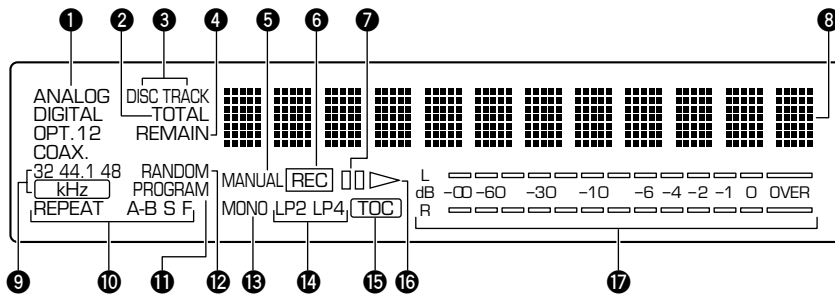
# 各部の名称

## フロントパネル



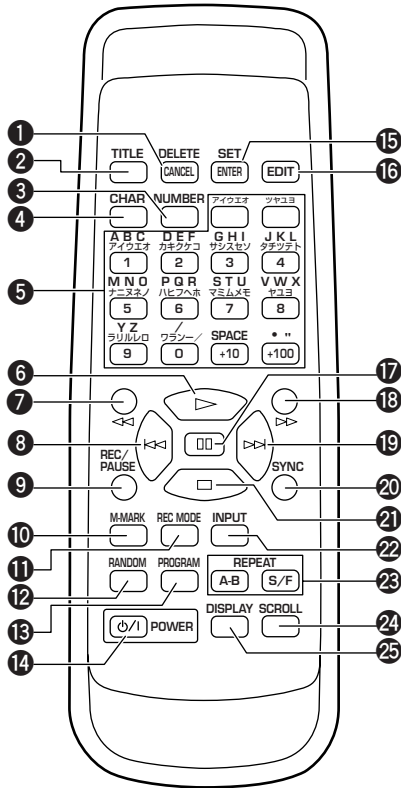
- ① STANDBY/ON (スタンバイ/オン) スイッチ (P.8)
- ② MD 挿入口 (P.8)
- ③ △(イジェクト) ボタン (P.8)
- ④ □ (停止) ボタン (P.8)
- ⑤ ▷/⏸ (再生/一時停止) ボタン (P.8)
- ⑥ REC/PAUSE (録音/待機) ボタン (P.12)
- ⑦ リモコン受信部 (P.5)
- ⑧ ディスプレイ (P.3)
- ⑨ INPUT (インプット) ボタン (P.12)
- ⑩ ANALOG REC LEVEL (アナログ録音レベル調節) つまみ (P.13)
- ⑪ ジョグダイヤル (◀◀/▶▶) / DIGITAL REC LEVEL (デジタル録音レベル調節) つまみ (P.8、13)

## ディスプレイ



- ① 入力端子表示部 (P.12)
- ② TOTAL (トータル) インジケータ (P.9)
- ③ DISC/TRACK (ディスク/トラック) インジケータ (P.9)
- ④ REMAIN (リメイン) インジケータ (P.9)
- ⑤ MANUAL (マニュアル) インジケータ (P.13)
- ⑥ REC (レック) インジケータ (P.12)
- ⑦ ⏸ (一時停止) インジケータ
- ⑧ 曲番/再生時間/ディスクの編集状態表示部
- ⑨ サンプリング周波数表示部 (P.12)
- ⑩ REPEAT A-B/S F (A-B/シングル/フルリピート) インジケータ (P.10)
- ⑪ PROGRAM (プログラム) インジケータ (P.11)
- ⑫ RANDOM (ランダム) インジケータ (P.10)
- ⑬ MONO (モノラル) インジケータ (P.14)
- ⑭ LP2/LP4 インジケータ (P.14)
- ⑮ TOC (トック) インジケータ (P.16)
- ⑯ ▷ (再生) インジケータ
- ⑰ 録音レベル表示部 (P.13)

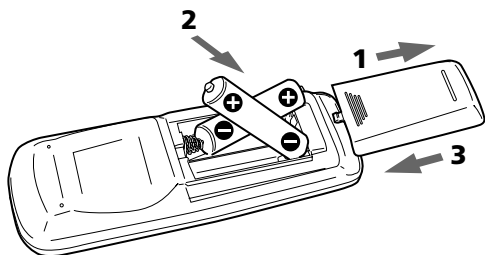
## リモコン



- ① DELETE/CANCEL (デリート/キャンセル) ボタン (P.20)
- ② TITLE (タイトル) ボタン (P.20)
- ③ NUMBER (ナンバー) ボタン (P.20)
- ④ CHAR (キャラクター) ボタン (P.20)
- ⑤ 数字 [キャラクター] ボタン (P.8、20)
- ⑥ ▷ (再生) ボタン (P.8、13)
- ⑦ ◀◀ (早戻しサーチ) ボタン (P.8、20)
- ⑧ ◀◀ (早戻しスキップ) ボタン (P.8、20)
- ⑨ REC/PAUSE (録音/待機) ボタン (P.12)
- ⑩ M-MARK ボタン (P.13)
- ⑪ REC MODE (録音モード) ボタン (P.14)
- ⑫ RANDOM (ランダム) ボタン (P.10)
- ⑬ PROGRAM (プログラム) ボタン (P.11)
- ⑭ POWER (パワー) ボタン (P.8)
- ⑮ SET/ENTER (セット/エンター) ボタン (P.20)
- ⑯ EDIT (エディット) ボタン (P.17)
- ⑰ ⏸ (一時停止) ボタン (P.8)
- ⑱ ▷▷ (早送りサーチ) ボタン (P.8、20)
- ⑲ ▷▷ (早送りスキップ) ボタン (P.8、20)
- ⑳ SYNC (シンクロ) ボタン (P.14)
- ㉑ □ (停止) ボタン (P.8)
- ㉒ INPUT (インプット) ボタン (P.12)
- ㉓ REPEAT A-B (A-Bリピート) ボタン (P.10)  
REPEAT S/F (シングル/フルリピート) ボタン (P.10)
- ㉔ SCROLL (スクロール) ボタン (P.9)
- ㉕ DISPLAY (ディスプレイ) ボタン (P.9)

## リモコンについて

### ■ 乾電池の入れかた



1. 裏ぶたをはずす
2. 単3乾電池（2個）をいれる
3. 裏ぶたを戻す

### ■ 乾電池の交換

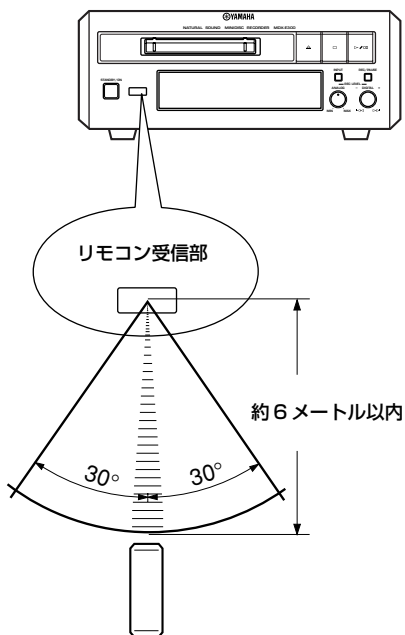
リモコン受信部に近寄らないと動作しないときは、乾電池を交換してください。

#### ご注意

乾電池は誤った使いかたをすると、液もれや破れつすることがありますので、次の点に注意してください。

- 乾電池のプラス（+）とマイナス（-）の向きを表示どおり正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使わないでください。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）をまぜて使わないでください。
- 乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使用しないときは、乾電池をすべて取り出してください。
- 液もれのときは、液にふれないよう、また衣服などにつかないよう気をつけながら、ケースの中についた液をよくふきとってください。

### ■ リモコンの使用範囲

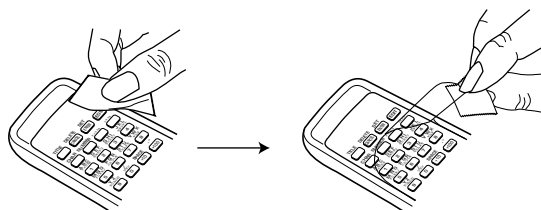


#### ご注意

- 受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。
- 受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていると、リモコンが働きにくくなります。照明または本体の向きをかえてください。

### ■ 保護フィルムのはがしかた

お買い上げ時のリモコン表面には、輸送中のキズつきを防ぐための保護フィルムが貼られています。フィルムをはがすときは、セロハンテープなどをフィルムに密着させてから、テープごと引きはがしてください。



#### ご注意

- リモコン表面をつめなどで引っかかないでください。

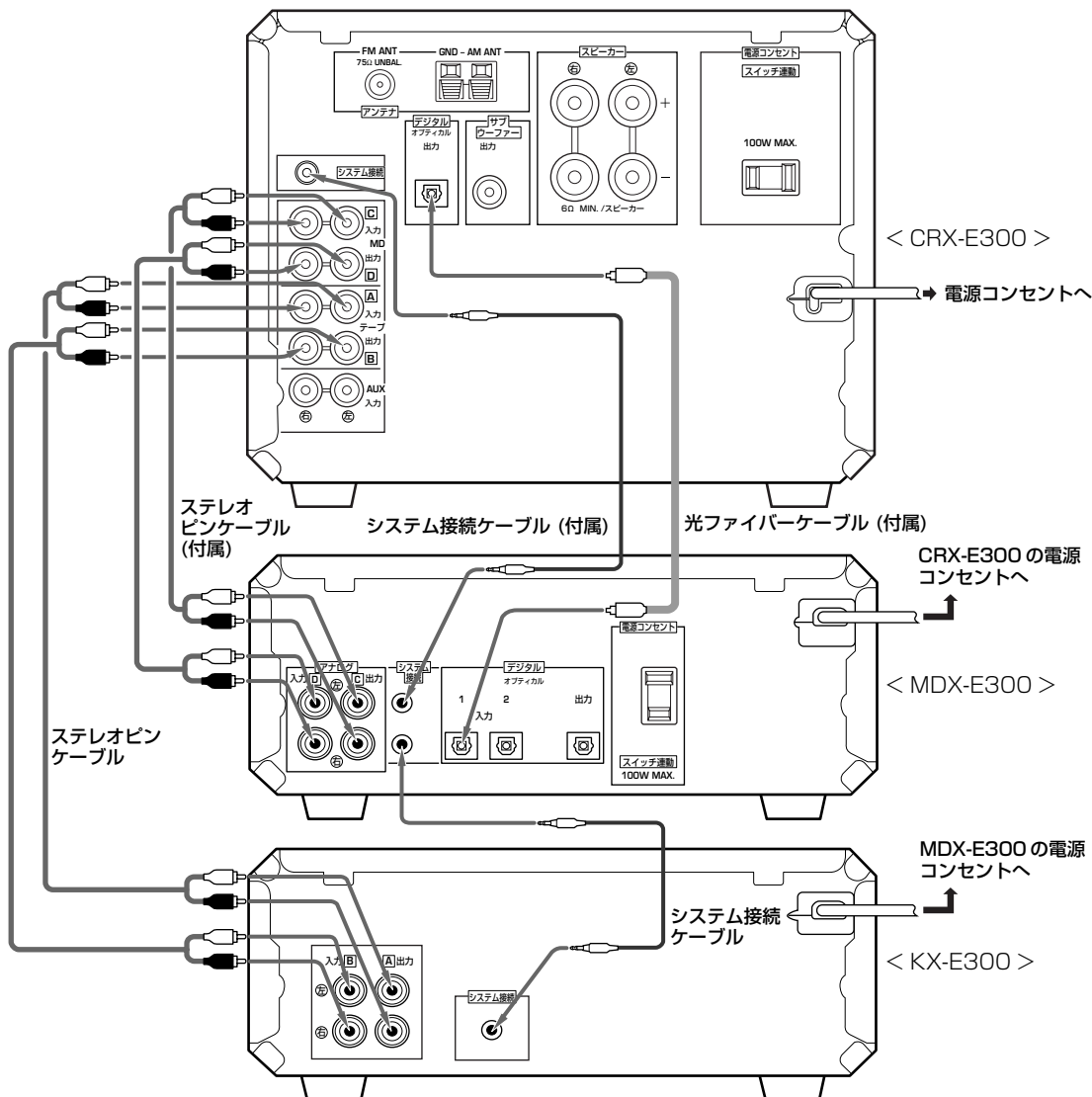
## システム接続する

接続が完了するまでは、絶対に本機の電源コードをコンセントにつながないでください。

- 接続する機器の入力/出力端子に正しく接続してください。
- 接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 本機をチューナーなどの近くに設置すると雑音の原因となるため、チューナーなどからは離して設置してください。
- システム接続ケーブルを使って、ヤマハ Piano Craft シリーズの機器のシステム接続端子どうしを接続すると、本機に接続した機器と連動して操作することができます。  
待機消費電力削減のため本機の電源コードは、レシーバー背面の電源コンセントへ接続してください。

### ご注意

- デジタルオプティカル端子を使って接続するときは、防塵キャップをはずしてください。
- デジタルオプティカル端子を使用しないときは、ほこりなどを防ぐため、必ずキャップをしてください。  
本機のデジタル端子はEIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。



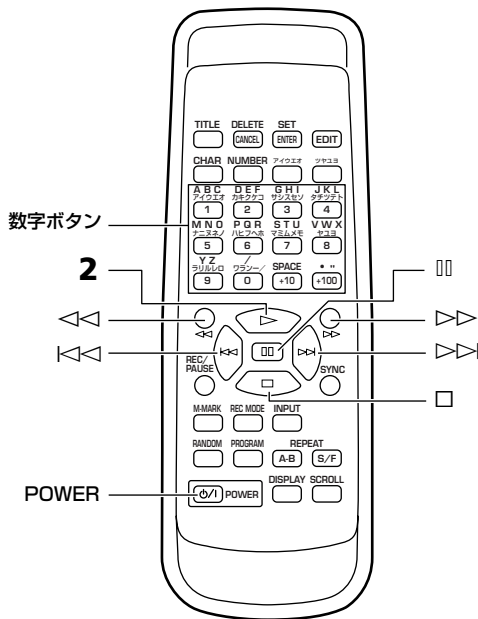
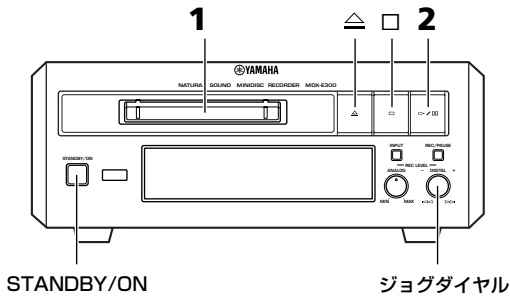
- 付属のステレオピンケーブルを使って、本機のアナログ出力端子とCRX-E300のアナログ入力端子を接続します。本機のアナログ入力端子とCRX-E300のアナログ入出力端子を接続します。
- システム接続ケーブルを使って、本機とCRX-E300、本機とKX-E300のシステム接続端子を接続します。システム接続ケーブルは本機とKX-E300に各1本付属しています。
- 本機のデジタルオプティカル1入力端子とCRX-E300のデジタルオプティカル出力端子を接続すると、デジタル録音が可能になります。



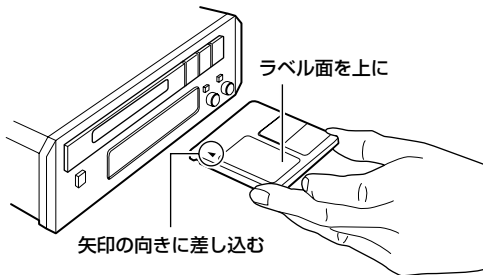
# MDの再生

## 再生する前に

- 本機のSTANDBY/ONスイッチまたはリモコンのPOWERボタンを押して、電源を入れます。
- 接続したレシーバー（またはアンプ）の入力ソースを「MD」にします。



## 1. MDを入れる



2. ▷/⏏ ボタンまたはリモコンの▷ ボタンを押す  
再生が始まります。
3. レシーバー（またはアンプ）で音量を調節する

## ■ 一時停止するには

▷/⏏ ボタンまたはリモコンの⏏ ボタンを押す  
元の再生に戻すには、もう一度▷/⏏ ボタンまたはリモコンの▷ ボタンを押します。

## ■ 再生を止めるには

⏏ ボタンを押す

## ■ MDを取り出すには

△ボタンを押す

## 選曲する

## ■ 次の曲へ進むには

ジョグダイヤルを右に回す（またはリモコンの▷▶ ボタンを押す）

## ■ 前の曲へ戻るには

ジョグダイヤルを左に回す（またはリモコンの◀◀ ボタンを押す）

## ■ 希望の曲へ進むには

リモコンの数字ボタンを押して、希望する曲を選ぶ

### 例えば：

- 3曲目を選ぶには、数字ボタンの3を押します。
- 13曲目を選ぶには、+10 → 3 と押します。
- 23曲目を選ぶには、+10 → +10 → 3 と押します。
- 123曲目を選ぶには、+100 → +10 → +10 → 3 と押します。

## 曲の聞きたい部分を探す

## ■ 再生中または一時停止中に、聞きたい部分を探すには

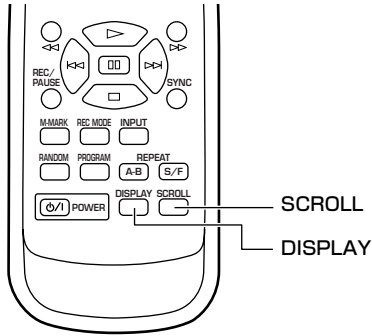
リモコンの◀◀または▶▶ ボタンを押し続け、希望するところでボタンから指を離す

### ご注意

- 再生中に◀◀または▶▶ ボタンを押しているあいだは音量が小さくなります。一時停止中に◀◀または▶▶ ボタンを押しているあいだは音は聞こえません（高速サーチ）。
- 数秒の曲が連続している場合、正常にサーチできないことがあります。

## 表示を切り換える

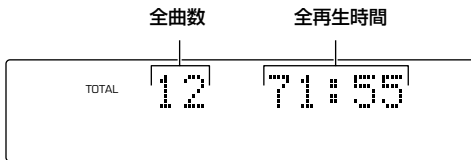
停止中または再生中に DISPLAY ボタンを押して、MD の残り時間や曲名などを表示します。



### ■ 停止中に表示を切り換えるには

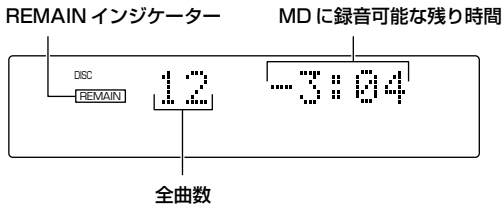
DISPLAY ボタンを押す  
表示が次のように切り換わります。

#### ① 全曲数と全再生時間

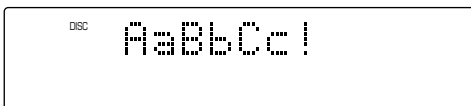


#### ② MD に録音可能な残り時間

(再生専用の MD では表示されません。)



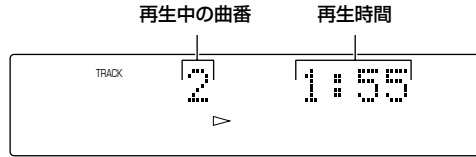
#### ③ ディスク名



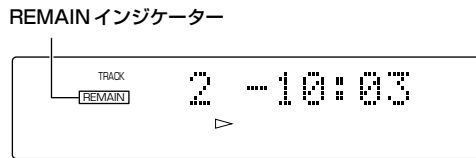
### ■ 停止中に表示を切り換えるには

DISPLAY ボタンを押す  
表示が次のように切り換わります。

#### ① 再生中の曲番と再生時間

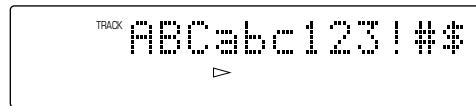


#### ② 再生中の曲の残り時間



#### ③ 曲名

(曲名が記録されていない場合は「No Title」と表示されます。)

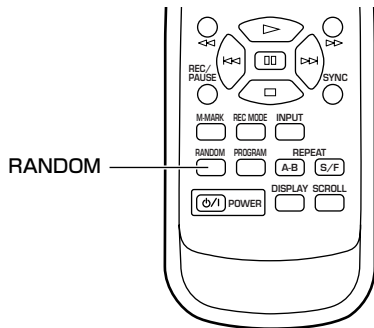


### ■ ディスク名／曲名を見るには

リモコンの SCROLL ボタンを押す  
ディスク名や曲名が長い場合は、スクロール表示します。スクロール中に SCROLL ボタンを押すと、スクロールが一時的に停止します。もう一度 SCROLL ボタンを押すと、再びスクロールが始まります。SCROLL ボタンを押し続けると、速くスクロールします。

## 順不同に聞く (ランダム再生)

全曲を曲番に関係なく、本機がランダム（無作為）に選んで再生します。



### ■ ランダム再生するには

RANDOM ボタンを押す

RANDOM インジケータが点灯し、本機が曲を選んでいくあいだ、ディスプレイに「\_ \_ \_ - - : - -」と表示されます。

ランダム再生が自動的に始まります。

### ■ ランダム再生を止めるには

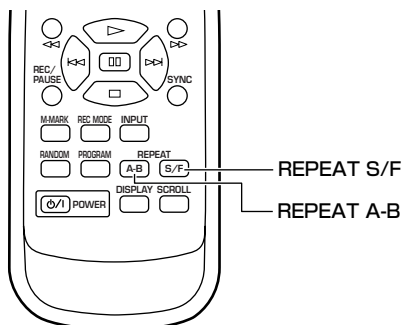
もう一度 RANDOM ボタンまたは □ ボタンを押して、RANDOM インジケータを消す

#### ご注意

- ランダム再生中に ▷▷ ボタンを押すと、次の曲をランダムに再生します。◀◀ ボタンを押すと、再生中の曲の頭に戻って再生します。(すでに再生し終わった曲には戻りません。)

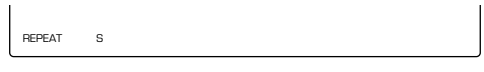
## 繰り返し聞く (リピート再生)

1 曲、全曲または曲の一部を繰り返し再生します。



REPEAT S/F ボタンを繰り返し押して、REPEAT SインジケータまたはREPEAT Fインジケータを点灯させる

1 曲のみ繰り返し再生する場合は、REPEAT Sインジケータが点灯します。



全曲を繰り返し再生する場合は、REPEAT Fインジケータが点灯します。



### ■ リピート再生を止めるには

REPEAT S/F ボタンを繰り返し押して、REPEAT SインジケータまたはREPEAT Fインジケータを消灯させる

#### 全曲リピート再生のご注意

- プログラム再生時は、プログラムした曲順に繰り返し再生します。
- ランダム再生時は、全曲を繰り返すたびに、曲順を変えて再生します。

## 聞きたい部分を繰り返し聞く (A-B リピート)

聞きたい部分を指定して、繰り返し再生します。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。

### 1. 再生中に、繰り返す部分の始点 (A 点) で REPEAT A-B ボタンを押す

REPEAT A インジケータが点灯します。



### 2. 繰り返す部分の終点 (B 点) で、もう一度 REPEAT A-B ボタンを押す

REPEAT A-B インジケータが点灯し、手順 1、2 で設定した部分を繰り返し再生します。



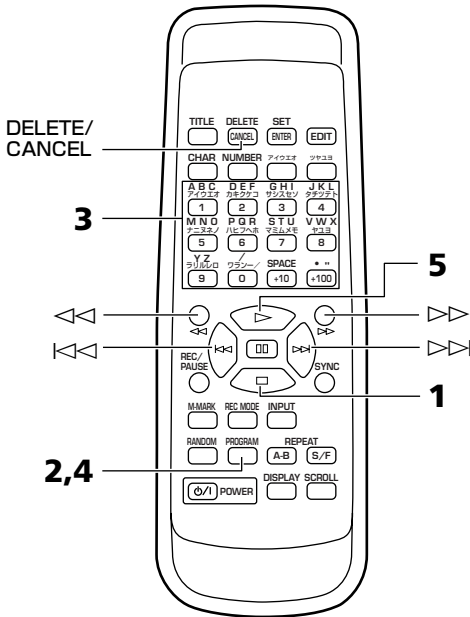
### ■ A-B リピート再生を止めるには

□ ボタンまたは REPEAT A-B ボタンを押す



## 聞きたい曲を好きな順に聞く (プログラム再生)

好きな曲を好きな順でプログラムし、再生します。



### 1. □ ボタンを押して、再生を止める

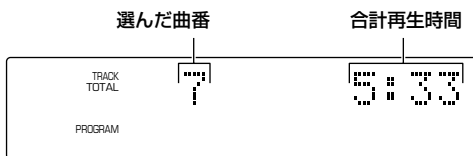
### 2. PROGRAM ボタンを押す

PROGRAM インジケーターが点灯します。

### 3. 数字ボタンを押して曲番を選ぶ

例えば：

- 3 曲目を選ぶには、数字ボタンの 3 を押します。
- 13 曲目を選ぶには、+10 → 3 と押します。
- 23 曲目を選ぶには、+10 → +10 → 3 と押します。
- 123 曲目を選ぶには、+100 → +10 → +10 → 3 と押します。



最大 30 曲までプログラムできます。

### 3. PROGRAM ボタンを押す

### 4. ▷ ボタンを押す

プログラムした順に再生が始まります。

### ■ プログラム内容を確認するには

- ① プログラム再生を止める (または一時停止する)
- ② ◀◀ または ▶▶ ボタンを押して (または本体のジョグダイヤルを回して)、プログラムした内容を確認する

### ■ プログラム内容を変更するには

- ① プログラム再生を止める
- ② PROGRAM ボタンを押す
- ③ ◀◀ または ▶▶ ボタンを押して (または本体のジョグダイヤルを回して)、変更したいプログラム内容を表示させる
- ④ 数字ボタンを使って、新しい曲をプログラムする  
元の曲がメモリーから消去され、新しい曲がプログラムされます。

### ■ 特定のプログラム内容を消去するには

- ① プログラム再生を止める
- ② PROGRAM ボタンを押す
- ③ ◀◀ または ▶▶ ボタンを押して (または本体のジョグダイヤルを回して)、消去したいプログラム内容を表示させる
- ④ DELETE ボタンを押す  
プログラム番号が繰り上がります。

### ■ プログラム再生を止めるには

停止中、□ ボタンを繰り返し押して、PROGRAM インジケーターを消灯させる

#### ご注意

- プログラムの合計時間が 100 分を超えると、「Over」が表示されます。
- プログラム再生中、◀◀ または ▶▶ ボタンを押すとプログラムした曲の頭出しができます。

# MDの録音

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

●お問い合わせ先  
(社) 私的録音補償金管理協会 Tel. 03-3506-8407

本機はアナログソース、デジタルソースから録音可能です。本機では、FM放送やカセットデッキからMDに録音する際に、アナログ信号を44.1 kHzのデジタル信号に変換して録音します。

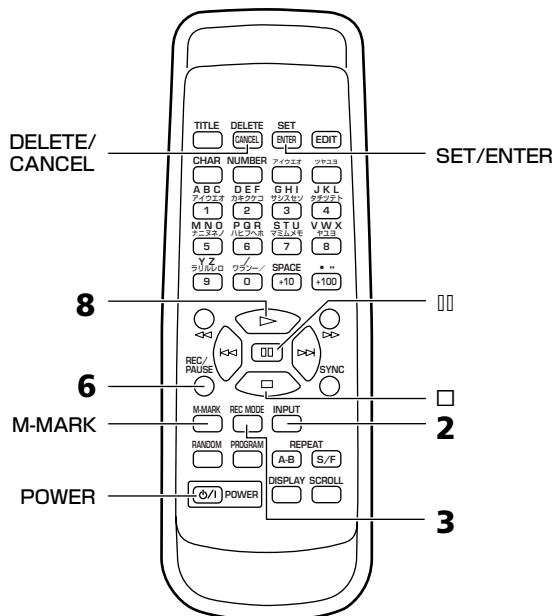
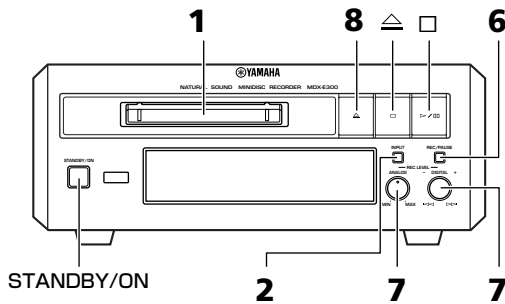
デジタルソースを録音する場合、本機はデジタル信号を44.1 kHzに変換して録音します。

(CDなどの44.1 kHzの信号を録音する場合は、変換しません。)

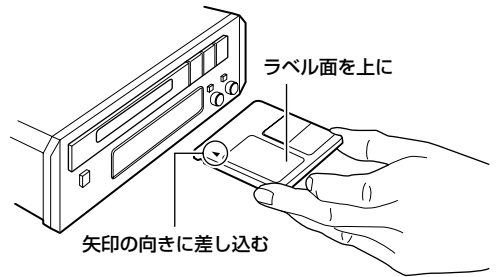
本機は32 kHz、44.1 kHz、48 kHzのデジタル信号を録音できます。

## 録音する前に

- 本機のSTANDBY/ONスイッチまたはリモコンのPOWERボタンを押して、電源を入れます。



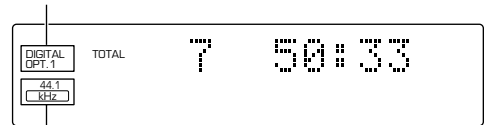
## 1. 録音用 MD を入れる



## 2. INPUT ボタンを繰り返し押して、録音したい機器をつないでいる入力端子を選択する

入力端子	入カインジケーター
アナログ入力 [A]	ANALOG
デジタルオプティカル1入力 [D1]	DIGITAL OPT. 1
デジタルオプティカル2入力 [D2]	DIGITAL OPT. 2

### 入カインジケーター



(ソースの) サンプリング周波数表示\*

\* デジタル信号が入力したとき点灯します。

## 3. REC MODE ボタンを押して、録音モードを選ぶ

(詳しくは、14 ページの「録音モードを設定する」をご覧ください。)

## 4. 録音を始める箇所を探す

何も録音されていない MD に録音するときには手順 5 に進む

以前録音した続きから録音するときには  
□ ボタンを押して、再生を止める

以前録音したものに上書きするときには  
ジョグダイヤルを回して (またはリモコンの◀▶または▶▶ ボタンを押して)、上書きする曲を選ぶ (録音は上書きする曲の頭から始まります。)

## 5. 録音するソースを再生する

録音レベルを調節する必要がない場合は、手順 6 に進んでください。

## 6. REC/PAUSE ボタンを押して、録音待機状態にする

REC [ ] インジケーターが点灯します。  
ディスプレイに「REC Standby」と録音可能な時間表示が交互に表示されます。

手順 4 で上書きする曲を選ぶと

ディスプレイに「OverWrite OK?」と表示されます。上書きするときには、SET/ENTER ボタンを押します。選択した曲番は消去されます。

取り消す場合は、DELETE/CANCEL ボタン (または □ ボタン) を押します。

## 7. 録音レベルを調節する（詳しくは、「録音レベルを調節する」をご覧ください。）

手順8に進む前に、ソースを録音を始める箇所に戻します。

## 8. ▷/⏮ ボタンまたはリモコンの▷ ボタンを押し、録音を始める

TOCインジケーターが点灯します。

TOCインジケーターが点灯しているあいだは、録音した内容（TOC）を記録しています。TOCの書き込みが終了すると、TOCインジケーターが消灯し、録音が終了します。

## 9. 録音したソースを再生する

本機と別売りのCRX-E300、KX-E300をシステム接続している場合は、シンクロ録音できます。

手順7の後にCRX-E300の▷/⏮ ボタンまたはKX-E300の▷ ボタンを押して、録音するソースを再生します。再生が始まると同時に録音が自動的に始まり、タイマー録音する場合は、CRX-E300に付属の取扱説明書をご覧ください。

## ■ 録音を一時停止するには

REC/PAUSE ボタンを押す

録音を再開するには、▷/⏮ ボタン（またはリモコンの▷ ボタン）を押します。

## ■ 録音を止めるには

□ ボタンを押す

## ■ MDを取り出すには

△ ボタンを押す

録音中に電源コードを抜くと、TOCが正しく書き込まれず、録音した内容が消えてしまいます。また、雑音の多いCDやFM放送などを録音するときは、TOCやトラックマークが正しく書き込まない場合がありますのでご注意ください。

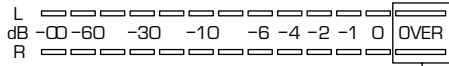
## 録音レベルを調節する

### ■ 録音レベルを設定するには（デジタル録音）

デジタル録音時、録音レベルは初期値で0 dB（入力ソースのレベル）に設定されています。通常、レベルを調節する必要はありません。デジタルフォーマットやデジタルソースのレベルの違いにより、デジタル信号の録音レベルの調節が可能になりました。デジタル信号のレベルは+12 dB～最小（MIN）のあいだで調節できます。録音したいソースの一番高いレベルの箇所を再生し、0 dBのレベルインジケーターが点滅するようにDIGITAL REC LEVELつまみを調節します。このときOVERインジケーターは点灯しないようにレベルを調節してください。録音が停止すると、デジタル録音時の録音レベルは0 dBに戻ります。

### ■ 録音レベルを設定するには（アナログ録音）

録音するソースの一番高いレベルの箇所を再生します。0 dBのレベルインジケーターが点滅するようにANALOG REC LEVELつまみを調節します。このときOVERインジケーターは点灯しないようにレベルを調節してください。（点灯した状態で録音すると、音が歪んだまま録音されることがあります。）



点灯しないように

### ご注意

- システム接続されている機器の録音レベルを調節するには、ソース側の機器の再生ボタンを押す前に、MDを取り出しておいてください。MDが入った状態で再生ボタンを押すと録音が始まってしまいます。

## 録音中に曲番を付ける

録音するときに、自動でトラックマーク（曲番）を付けるか（オートトラックマーキング）、手動で付けるか（マニュアルトラックマーキング）を選択できます。アナログ録音とデジタル録音とでは、トラックマークの付き方が異なります。

M-MARK ボタンを繰り返し押して、オートトラックマーキング（MANUALインジケーター消灯）かマニュアルトラックマーキング（MANUALインジケーター点灯）を選ぶ

### ■ アナログ信号を録音するときは

**オートトラックマーキング：**録音する信号の入力レベルに合わせて、トラックマークを付けます。録音中1.5秒以上無音部分が続いたときに自動でトラックマークが付きます。  
**マニュアルトラックマーキング：**録音を始めるとトラックマークが1つ付きます。録音中、トラックマークを付けるには、希望する箇所でM-MARK ボタンを押します。

### ご注意

- マニュアルトラックマーキングでトラックマークを付けるときは、4秒以上間隔を開けてください。

### ■ デジタル信号を録音するときは

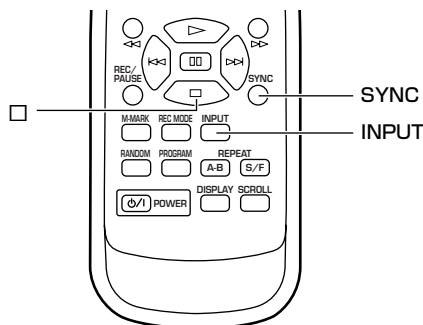
トラックマークは録音するソースと同じように付けます。録音中に、トラックマークを追加して付けるには、M-MARK ボタンを押して、MANUALインジケーターを点灯させて、希望する箇所でM-MARK ボタンを押します。

### ご注意

- 録音を一時停止したときは、一時停止した箇所でトラックマークが付きません。録音を再開すると新しいトラックマークが付きません。
- シンクロ録音中は、マニュアルトラックマーキングはできません。

## ミュージックシンクロ録音する

ミュージックシンクロ録音機能により録音したい曲の再生が始まると、自動的にMDの録音を開始します。



### 1. 録音したい曲を準備しておく

手順2に進む前にプログラム設定や録音したい曲を選択してください（ソース側の機器の取扱説明書も併せてご覧ください）。

### 2. INPUT ボタンを繰り返し押し、録音したい機器をつないでいる入力端子を選択する

### 3. SYNC ボタンを押す

REC $\square$ インジケーターが点灯し、本機は録音待機状態になります。

ディスプレイに「Synchro REC」と録音可能な時間表示が交互に表示されます。

ミュージックシンクロ録音中、アナログ入力ソースはANALOG REC LEVELつまみで調節した設定で録音されます。デジタルソースの場合は0 dBで録音されます。

録音したい曲の再生が始まると、自動的に録音が始まります。曲の再生が終了すると、本機は録音一時停止になり、ディスプレイに「Synchro REC」が点滅します。次の曲が始まると同時に、再び録音が始まります。

### 4. 録音したい曲を再生する

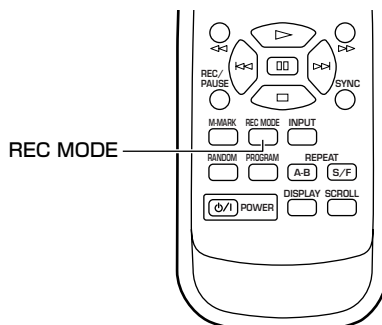
■ミュージックシンクロ録音を止めるには  
□ボタンを押す

#### ご注意

- 録音する曲の始めの信号レベルが、ミュージックシンクロ録音を開始するのに必要なレベルより低い場合は、録音できません。このような場合は通常の録音を行ってください。

## 録音モードを設定する

本機にはいろいろな録音モードがありますので、適切な録音モードを選んでください。



REC MODE ボタンを繰り返し押し、希望する録音モードのインジケーターを点灯させる

### 例：80分録音可能なMDを使用する場合 MONO（モノラル）

160分のモノラル録音になります。

#### LP2

160分のステレオ録音になります。

#### LP4

320分のステレオ録音になります。

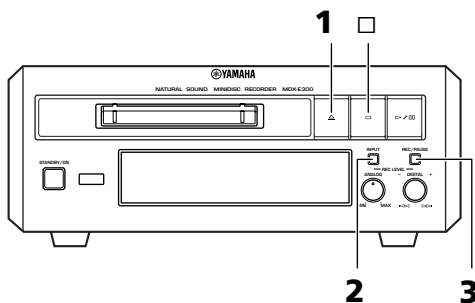
上記のインジケーターがすべて消灯したときは、通常のステレオ録音になります。

#### ご注意

- MDLP機能を搭載していないMDレコーダーでは、MDLP（ロングプレイモードで録音されたMD）の再生や編集はできません。MDLP機能を搭載していないMDレコーダーでMDLPを再生した場合は、ディスプレイに「LP:」と表示され、再生できません。
- 通常のステレオ録音が一番音質は良いです。
- 録音中、録音モードは変更できません。

## 録音する音をモニターする

MDを入れる前に、録音するソースの音をモニターし、録音レベルを調節します。



1. △ボタンを押して、MD を取り出す
2. INPUT ボタンを繰り返し押し、モニターしたい入力ソースを選ぶ
3. REC/PAUSE ボタンを押す  
ディスプレイに「Monitor Out」と表示されます。
4. モニターしたいソースを再生する  
本機のアナログまたはデジタル端子から音が出力されます。

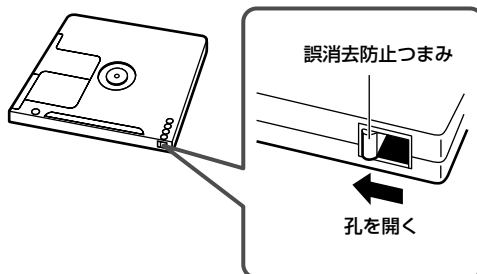
## ■ モニターを止めるには

□ ボタンを押す

## ご注意

- デジタルオプティカル2入力端子に接続したデジタル機器の音をモニターするときに便利です。
- モニター中にデジタル録音レベルを調節できますが、実際に録音するときは初期値 (0 dB) に戻りますので、ご注意ください。

## 録音した内容を保護する



- 録音内容を誤って消さないために、誤消去防止つまみをずらして、孔を開いた状態にします。  
この状態だと、MD に録音や編集はできません。  
録音や編集をするときは、つまみを元の位置に戻します。
- 孔を開いた状態でMDを本機に差し込むと、ディスプレイに「Protected」と表示されます。

MDの便利な機能の中に編集機能があります。

例えば、FM放送を録音したときに、コマーシャルの部分を消したり、聞きたい順に曲を並び変えたり、曲を消したり、つなげたり、曲の一部を消したりできます。

下記の編集機能があります。

## ■ Erase (イレース) 機能

1曲、全曲、曲の一部を消します。  
また、ディスク名や曲名も消します。

## ■ Move (ムーブ) 機能

曲を移動します。

## ■ Combine (コンバイン) 機能

曲をつなぎます。

## ■ Divide (ディバイド) 機能

曲を分けます。

## ■ FRA check (フラチェック) 機能

録音できる部分を復活します。

## ■ TOC write (トックライト) 機能

編集後にTOCを書き込みます。

## ■ Undo (アンドゥー) 機能

編集を取り消します。

## ■ 編集するときのご注意

### 編集をやめるには

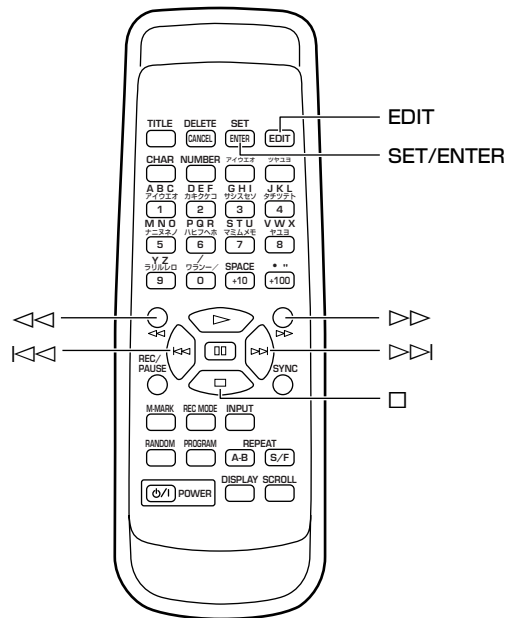
□ボタンを押す

### 編集する前に

MDが誤消去防止状態になっていないか確認してください。誤消去防止状態になっていると、編集できません。MDの誤消去防止つまみをずらして、孔が閉じた状態にしてから編集してください。

### 編集した後に

- △ボタンを押してTOC情報を書き込んでからMDを取り出します。
- ディスプレイにTOCインジケーターが点灯しているあいだは、TOC情報の書き込みが終了していません。TOCインジケーターが点灯しているときのみ、Undo機能が可能です。



## 曲を消す (Erase 機能)

MDに記録された全曲または1曲、曲の一部を消すことができます。

### ■ MDのすべての曲を消すには (Disc erase 機能)

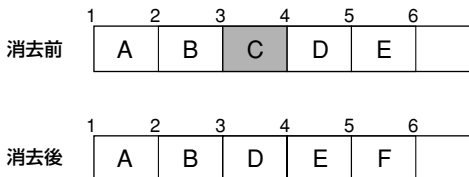
すべてのオーディオ、タイトル (文字) 情報を消し、何も記録されていない (ブランク) ディスクにします。消した後はUndo機能を使っても、データは元に戻らないので、ご注意ください。

1. □ ボタンを押して、本機を停止させる
2. EDIT ボタンを繰り返し押し、**「Disc Erase?」**と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「DiscEraseOK?」と表示されます。
3. もう一度 SET/ENTER ボタンを押す  
記録されていた全情報が消えると、ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

### ■ 1曲を消すには (Track erase 機能)

指定した曲番とその曲名を消します。  
消した後は、曲番が繰り上がります。

#### 例：3曲目を消す場合

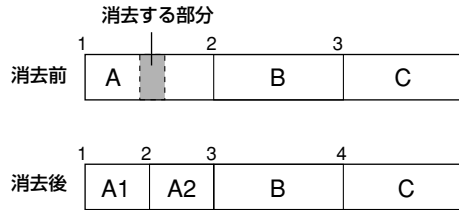


1. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、消したい曲を選ぶ
2. EDIT ボタンを繰り返し押し、**「Erase ?」**と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「(曲番) Erase OK?」と表示されます。
3. もう一度 SET/ENTER ボタンを押す  
指定した曲が消えると、ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

#### 2曲以上消したいときは

途中で曲番が変わらないように、後ろの曲から消すことをおすすめします。

### ■ 曲の一部を消すには (A-B erase 機能)



1. 消したい箇所のある曲を再生する
2. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、消したい箇所の頭を指定し (A 点)、⏏ ボタンを押す  
本機は一時停止します。
3. EDIT ボタンを繰り返し押し、**「A-B Erase?」**と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
A 点が設定され、ディスプレイに「Erase A-」と表示されます。
4. ▶ または ▶▶ ボタンを押して、消したい箇所の最後 (B 点) を指定する
5. SET/ENTER ボタンを押し、B 点を設定する  
ディスプレイに「Check」と表示されます。  
指定した A-B 間を繰り返し再生し、「Erase A-B?」と表示されます。

#### A 点と B 点の位置を調節するには

EDIT ボタンを繰り返し押し、ディスプレイに「A point」または「B point」を表示させます。  
◀◀または▶▶ ボタンを押して、A 点または B 点を調節します (±2 秒の範囲で調節できます)。

6. もう一度 SET/ENTER ボタンを押す  
指定した箇所が消えると、ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

#### ご注意

- A-B erase 機能で消した箇所の後ろに、新しいトラックマークが自動的に付きます。
- A 点の前に B 点を指定することはできません。

## ■ ディスク名や曲名を消すには (Title erase 機能)

MDに記録されたディスク名や曲名を消します。ディスク名は停止中のみ消すことができます。曲名は再生中または停止中に消すことができます。

### ディスク名を消すには

1. □ ボタンを押して、本機を停止させる
2. EDIT ボタンを繰り返し押して、「Title Erase?」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Disc Title」と「Erase OK?」が交互に表示されます。
3. もう一度SET/ENTER ボタンを押す  
ディスクタイトルが消えると、ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

### 曲名を消すには

1. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、消したい曲名を選ぶ
2. EDIT ボタンを繰り返し押して、「Title Erase?」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Track Title」と「Erase OK?」が交互に表示されます。
3. もう一度SET/ENTER ボタンを押す  
曲名が消えると、ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

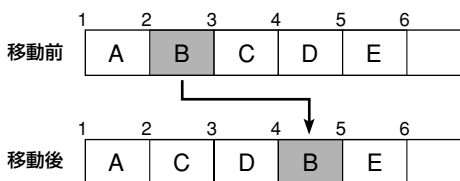
#### ご注意

- 上記の2つの操作を区別するため、「Title Erase」と表示されているあいだ、DISC インジケータまたはTRACK インジケータが点灯します。
- 誤ってディスク名または曲名を消さないように、DISPLAY ボタンを繰り返し押して、タイトルを表示させてから上記の操作を行ってください。

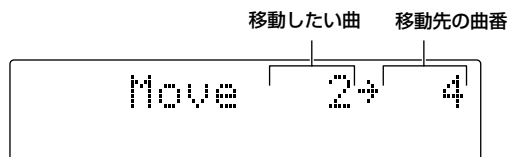
## 曲を移動する (Move 機能)

曲を好きな位置に移動して、曲順を変えることができます。曲番を移動すると、曲番が自動的に更新されます。

### 例：2曲目を4曲目に移動する場合



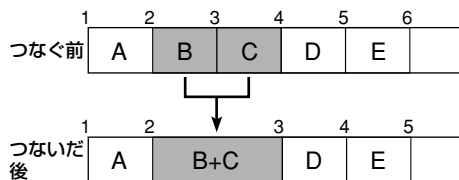
1. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、移動したい曲を選ぶ
2. EDIT ボタンを繰り返し押して、「Move ?」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す
3. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、移動先の曲番を指定する



4. SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

## 曲をつなげる (Combine 機能)

連続した2つの曲をつないで1曲にまとめます。Combine機能で編集後、曲番は自動的に更新されます。



1. □ ボタンを押して、本機を停止させる
2. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、つなげたい2曲のうち、後の曲を選ぶ
3. EDIT ボタンを繰り返し押して、「Combine ?」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Check」と数秒間表示されます。つなげる2曲のうち、前の曲の最後の4秒間と後の曲の最初の4秒間を再生します。このときディスプレイに「(前の曲の曲番) + (後の曲の曲番) OK?」と表示されます。
4. もう一度SET/ENTER ボタンを押す  
曲がつながると、ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

#### ご注意

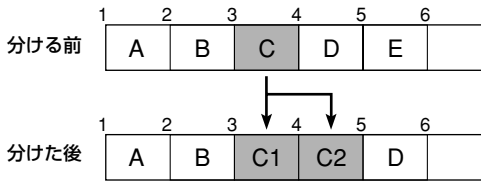
- MDLPモードで録音された曲は、MDLPモードで録音されていない曲とつなげることはできません。(ディスプレイに「Impossible」と表示されます。)



## 曲を分ける (Divide 機能)

1つの曲を2つの曲に分けます。新しいトラックマークが追加されます。

例：3曲目を2つの曲に分ける場合



1. 分けたい曲を再生する
2. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、分けたい箇所を選び、⏏ ボタンを押す  
本機は一時停止します。
3. EDIT ボタンを繰り返し押して、「Divide ?」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Check」と数秒間表示され、「Divide OK ?」が表示されます。曲を分ける箇所を繰り返し再生します。
4. ◀◀または▶▶ ボタンを押して、曲を分ける位置を調節する  
曲を分ける位置は±2秒 (255ステップ) の範囲で調節できます。
5. SET/ENTER ボタンを押す  
曲が分かると、ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

## 編集を取り消す (Undo 機能)

編集する前の状態に戻します。

1. □ ボタンを押して、本機を停止させる
2. EDIT ボタンを繰り返し押して、「Undo \_\_\_\_\*1」を表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Undo OK ?」と表示されます。Undo 機能をやめるには、□ ボタンを押します。  
\_\_\_\_\*1: 取り消したい編集機能が表示されます。
3. もう一度 SET/ENTER ボタンを押す

### ご注意

- TOC を書き込んだ後は、Undo 機能は働きません。

## TOC を書き込む (TOC write 機能)

MDに録音する場合、録音が終了するとすぐにTOC (Table Of Contents) がMDに書き込まれます。MDの編集やタイトルを付けるとき、MDを取り出さないと、TOCは自動的に書き込まれません。

TOCに編集情報やタイトルを書き込む前に、停電などで本機の電源が切れた場合、変更した内容は記録されない場合があります。

このような場合に備えて、手動でTOCを書き込むことができます。

1. □ ボタンを押して、本機を停止させる
2. EDIT ボタンを繰り返し押して、「TOC Write ?」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「TOC Write OK ?」と表示されます。
3. SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「TOC Writing」が数秒間点滅します。

### ご注意

- ディスプレイにTOCインジケータが点灯しているときのみ、TOCを書き込むことができます。

## 録音の空きを作る (FRA check 機能)

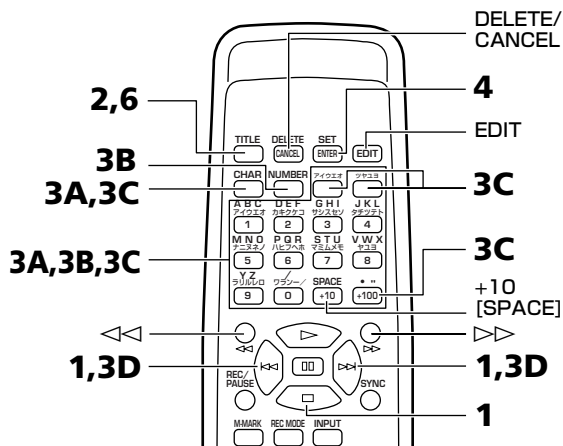
Move機能やDivide機能を使って編集すると、録音できる空きが無くなり、ディスプレイに「TOC Full」と表示される場合があります。

このような場合、MDに録音できる空き (FRA = Freely Recordable Area) を作ります。

1. □ ボタンを押して、本機を停止させる
2. EDIT ボタンを繰り返し押して、「FRA Check ?」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「FRA Check OK ?」と表示されます。
3. SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Complete」が数秒間表示されます。

# 曲名やディスク名を付ける

録音した MD や曲に名前を付けます。  
アルファベットの大きい文字、小文字、数字、カタカナ、記号を使って、1つの名前に付き、250文字まで入力できます。



## 1. <ディスク名を付ける場合>

ボタンを押して、本機を停止させる

<曲名を付ける場合>

- ボタンを押して、本機を停止させる
- <<< または >>> ボタンを押して、名前を付けたい曲を選ぶ  
再生中、一時停止中、録音中でも名前を付けることができます。  
ただし、Undo 機能は動きません。

## 2. TITLE ボタンを押す

ディスプレイにカーソルが表示されます。

## 3. A) アルファベットを入力するには

- CHAR ボタンを繰り返し押して、大文字 (A、B、C …) または小文字 (a、b、c…) を選ぶ
- 数字 [キャラクター] ボタンを押して、文字を選択する

## B) 数字を入力するには

- NUMBER ボタンを押す
- 数字 [キャラクター] ボタンを押して、数字を選択する

## C) カタカナを入力するには

- CHAR ボタンを繰り返し押して、カタカナ (ア、イ、ウ、ア、イ、ウ、°、` …) を選ぶ
- 数字 [キャラクター] ボタンを押して、文字を選択する

## D) 記号を入力するには (! # \$ % & …)

<<< または >>> ボタンを押して、記号を選ぶ  
(記号は数字と大文字のアルファベットのあいだに表示されます。)

## 例：文字を選択する場合

- 手順 3 で CHAR ボタンを押してから  
1 [ABC] ボタンを 1 回押すと、「A」を選びます。  
1 [ABC] ボタンを 2 回押すと、「B」を選びます。

- 手順 3 で NUMBER ボタンを押してから  
1 [ABC] ボタンを押すと、「1」を選びます。
- 記号を速く探すには  
CHAR ボタンを押した後、1 [ABC] ボタンを押して大文字の「A」を選びます。<<< ボタンを押すと逆方向に記号を探していきます。

<<< または >>> ボタンを繰り返し押すと、すべての文字をスクロールします。

## 4. SET/ENTER ボタンを押して、文字を決定する

### ご注意

- 手順 3 で数字ボタンを使って数字を選ぶ場合は、SET/ENTER ボタンを押す必要はありません。

## 5. 手順 3 と 4 を繰り返して、名前を入力する 文字を削除するには (ABCD → ABD)

- <<< または >>> ボタンを押して、削除したい文字のところにカーソルを移動する
- DELETE/CANCEL ボタンを押す

## 文字を追加するには (ABCD → ABTCD)

- <<< または >>> ボタンを押して、追加したい文字のところにカーソルを移動する
- CHAR ボタンまたは数字 [キャラクター] ボタンを押して、追加したい文字を選ぶ
- SET/ENTER ボタンを押して文字を決定する  
元々あった文字は右へ移動します。

## スペースを追加するには (ABCD → AB CD)

- <<< または >>> ボタンを押して、スペースを追加したい文字のところにカーソルを移動する
- +10 [SPACE] ボタンを押す

## 名前を付けるのをやめるには

ボタンを押す

## 6. TITLE ボタンを押す

タイトルが 12 文字以上のときは、1 回ディスプレイをスクロールし、その後は最初の 12 文字が表示されます。

## 名前を付けるのを Undo するには

- ボタンを押す  
ディスプレイに全曲数と全再生時間が表示されます。
- EDIT ボタンを繰り返し押して、「Undo Title」と表示させてから、SET/ENTER ボタンを押す  
ディスプレイに「Undo OK ?」と表示されます。
- もう一度 SET/ENTER ボタンを押す

## 7. TOC インジケーターが点灯している場合は、TOC write 機能を行う

### TOC write 機能を行うには

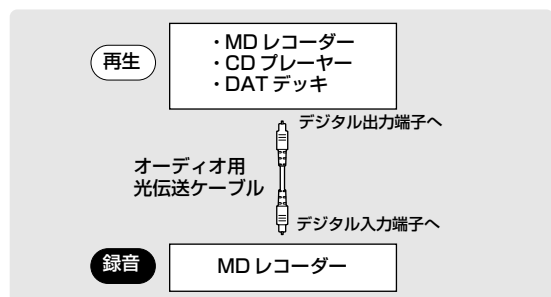
- 18 ページの「TOC を書き込む (TOC write 機能)」の手順に従い、操作する
- 本体の  $\Delta$  ボタンを押す  
(本機は自動的に TOC を書き込みます。)

## デジタル録音のルール（シリアルコピーマネージメントシステム）

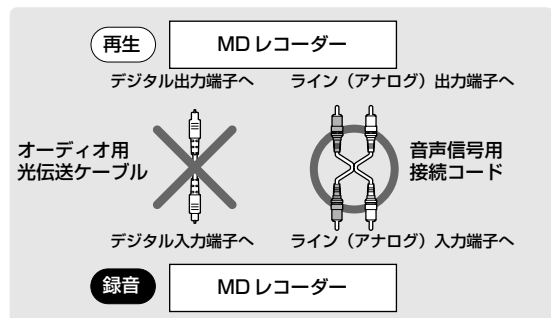
デジタル入力で録音したMDをさらにデジタル録音することはできません。本機は、シリアルコピーマネージメントシステムの規格に準拠したデジタルオーディオ機器です。「シリアルコピーマネージメントシステム」は、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」というデジタル信号どうしのコピーを「1世代まで」と規制したものです。2つの原則があります。

### ● 原則1

コンパクトディスク（CD）またはデジタルオーディオテープ（DAT）、ミニディスク（MD）ソフトから、MDへ「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できます。ただし、一度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したものを、他のMDへ「デジタル信号のままデジタル録音」できません。

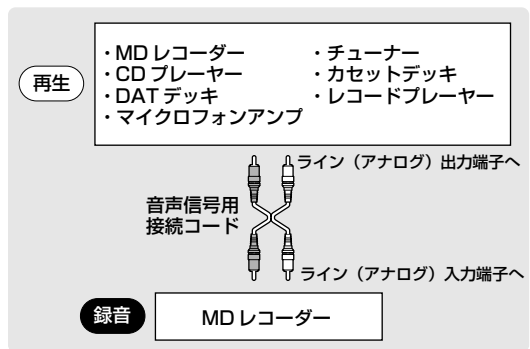


「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」した1世代目

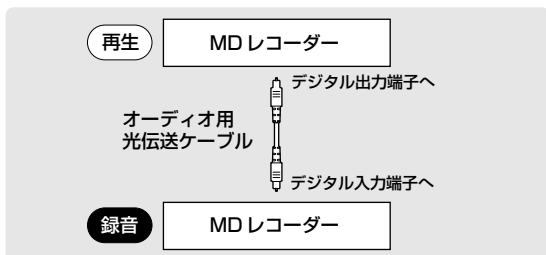


### ● 原則2

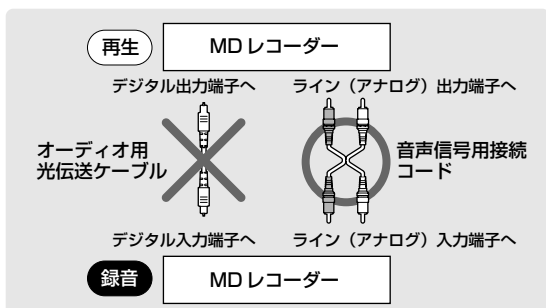
アナログレコードやFM放送などを本機で録音したMDから、他のMDへ「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」することができます。ただし、一度「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」したMDから、他のMDへ「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」できません。



ライン（アナログ）入力につないで録音したミニディスク



「デジタル信号をデジタル信号のまま録音」した1世代目



MDレコーダーどうしをアナログ端子につないだときは、何回でも録音できます。

## システム上の制約について

MDレコーダーの録音システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で行われます。そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

■ **最大録音可能時間に達していても、「Can't REC!」が表示される**

1枚のMDに255曲を録音した場合、全録音時間に関係なく、「Can't REC!」が表示されます。

■ **最大録音可能な曲数(255曲)に達していても、「TOC Full」が表示される**

自動でトラックマークを付けている場合、曲中にエンファシス情報などの入切が多く行われると、曲の区切りと同じ扱いになり、曲数が増えていき、「TOC Full」の表示が出る場合があります。

■ **短い曲を何曲消してもMDの残り時間が増えない**

MDの残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視するので、短い曲を消しても時間が加算されないことがあります。

■ **「TOC Reading」の表示がなかなか消えない**

購入したばかりの録音用MDを入れると、通常より「TOC Reading」表示が長く表示されます。

■ **MDに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間に一致しない場合がある**

通常、1クラスタ(約2秒)が最小単位で録音されます。それに満たないものでも2秒分のスペースを使います。このため、実際に使用できる時間は少なくなります。

また、MDに傷があると、その部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

■ **編集でできた曲でサーチを行うと、音が途切れることがある**

■ **曲番が正確につかないことがある**

デジタル接続でCDを録音するとき、CDの録音内容によって、短い曲ができる場合があります。

また、ミュージックシンクロ録音で自動的にトラックマークを付けた場合、録音するものの内容によっては、曲番が正確につかない場合があります。

■ **A-B erase機能を使って曲の一部を消さない**

通常、1クラスタが最小単位で構成されています。これらの最小単位が10秒以下のステレオ音では構成されない場合があります。

■ **録音済みの部分を消しながら録音(上書き録音)すると**

- MDの残り時間が正確に表示されないことがあります。
  - 何度も繰り返すと、消しながら録音できなくなることがあります。
  - 録音した時間に対して、録音後の残り時間が、録音前の残り時間よりもかなり減ってしまうことがあります。
  - 曲の途中のノイズなどをこの方法で消すと、曲の長さが変わったりしてしてしまうので適しません。
  - 曲に名前を付けられないことがあります。
- 上記のようなときは、曲を消すなどの編集を行ってから録音してください。

■ **モノラルフォーマットのMDでは時間が正確に表示されないことがある**

## メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、下記のメッセージがディスプレイに表示されることがあります。

### Can't copy

デジタル録音できません。(詳しくは21ページの「デジタル録音のルール(シリアルコピーマネージメントシステム)」をご覧ください。)

### Can't edit!

編集ができません。

### Can't REC!

録音できない状態です。MDが誤消去防止状態になっているか、残量不足です。

### Can't REC

録音できない状態です。MDが破損している可能性があります。

### DIG in Unlock

選んだデジタル入力端子からデジタル信号が入力されていないなど、デジタル録音できない状態になっています。

### TMP Over!!

本機の温度が高くなりすぎました。  
電源を切り、しばらく時間をおいてから再度接続してください。また、本機を風通しの悪い場所に設置しているときは、風通しの良い場所へ移動してください。

### Disc Full

MDの録音可能なスペースが少ないため録音できません。

### Title Full!

曲名、ディスク名にすでに250文字入力されているため、これ以上文字を追加できません。

### UTOC W Error

UTOC (User Table of Contents) の書き込みでエラーが発生しました。

### Not Audio

音楽用MD以外のディスクが挿入されています。

### Tr Protected

トラックプロテクトがかかっているため編集できません。

### TOC Full

TOCエリアが一杯になり、これ以上編集できません。

### UTOC Err LO ~ 4

UTOCデータに異常があります。

### TOC Writing

TOC情報をMDに書き込んでいます。  
TOCを書き込んでいるあいだは、本機を移動したり、電源コードを抜いたりしないでください。

### TOC Reading

TOC情報を読み込んでいます。

### Protected

MDが誤消去防止状態(ライトプロテクトON)になっています。

### PlayBack MD

再生専用MDです。

### Monitor Out

入力モニター中です。

### No Track

何も録音されていないMDを操作しています。

## 故障かな？と思ったら

下記のようなときは故障でないことがありますので、修理やサービスをお申し付けになるまえにご確認ください。対処してもなおらないとき、または下記以外の異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店かヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問合せ、サービスをご依頼ください。

こんなとき	考えられる原因	なおしかた
操作を受け付けない。	MDが汚れている、または損傷している。	新しいMDと取り替えてください。
	MDが損傷している（「UTOC Err LO～4」が表示される）。	
正常に動作しない。	誤操作や強い外来ノイズ(雷による電源電圧の異常など)のために、操作を受け付けなくなっている。	いったん本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。約30秒後、電源コードを接続し、操作してみてください。
再生できない。	結露（内部に水滴が付着）している。	本機の電源をオンにしたまま、20～30分おいてから使用してください。
	電源がオフになっている。	STANDBY/ON スッチ（またはリモコンのPOWER ボタン）を押して、電源を入れてください。
	MDが正しく入っていない。	ラベル面を上にして、MDの矢印の向きに合わせ差し込んでください。
	何も録音されていないMDが入っている（「Blank Disc」が表示される）。	録音されているMDと取り替えてください。
録音できない。	M D が誤消去防止状態になっている（「Protected」が表示される）。	MDの誤消去防止つまみをもどして孔を閉じてください。
	再生専用のMDが入っている（「PlayBack MD」が表示される）。	録音用MDと取り替えてください。
	音源と正しく接続されていない。	接続し直してください。
	入力設定が正しくない。	INPUTボタンを繰り返し押して、正しい入力端子を選んでください。
	録音レベルが低すぎる。	REC LEVELつまみで録音レベルを調節してください。
	デジタルソースのデジタル出力レベルが低すぎる。	デジタルソースのデジタル出力レベルを「MAX」に設定してください。
	MDに録音可能なスペースが無い。	残り時間が充分ある録音用MDと取り替えてください。または不要な曲を消してください。
	録音中に電源コードが抜かれた、または停電になったため、それまでの録音の内容は失われた。	正常に録音できていないときは、始めから録音し直してください。
MDが途中までしか出てこない。	ロック機構がかかっている。	もう一度MDを完全に押し込んで、△ボタンを押して取り出してください。
雑音が入る。雑音が録音されている。	テレビなどに近い場所に設置している。	テレビなどから充分離して設置してください。
リモコンがうまく操作できない。	乾電池が消耗している。	新しい乾電池と取り替えてください。
	リモコン受信部に正しくリモコンを向けていない。リモコン受信部からの距離が遠すぎる。	リモコン受信部から6m、左右30°以内でリモコン操作してください。
	リモコン受信部に強い日光や照明（インバーター蛍光灯など）があたっている。	強い日光や照明から本機を離してください。

## 仕様

## ミニディスクレコーダー部

形式	ミニディスク デジタルオーディオシステム
ディスク	ミニディスク
記録方式	磁界変調オーバーライト方式
再生読み取り方式	非接触光学式読み取り
レーザー	半導体レーザー
録音再生時間	最大 80 分 (ステレオ) 261 分 (ATRAC3-LP2) 323 分 (ATRAC3-LP4)
回転数	約 400 ~ 900rpm (CLV)
エラー訂正方式	ACIRC (Advanced Cross Interleave Reed-solomon Code)
サンプリング周波数	44.1kHz (48kHz、32kHz のデジタル信号は 44.1kHz にレート 変換されて録音されます。)
コーディング	ATRAC3 (Adaptive Trans-form Acoustic Coding)
チャンネル数	2 ch (ステレオ) 1 ch (モノラル長時間モード)
周波数特性	± 0.5dB (5 ~ 20,000Hz)
S/N 比	再生時 99dB 以上
ワウフラッター	測定限界値 (± 0.001% W. PEAK) 以下

## 入出力端子

入力端子	デジタル 2 (光 2)、アナログ 1
出力端子	デジタル 1 (光 1)、アナログ 1
システム接続端子	ミニジャック 2
アナログ入力感度	ライン 300mV / 50k Ω
アナログ出力レベル	2.0 ± 0.5Vrms
デジタル録音レベル	MIN ~ +12 dB
デジタル入力	光受信モジュール (EIAJ)
デジタル出力	光送信モジュール (EIAJ)

## 電源・その他

電源	AC 100V 50/60Hz
消費電力	11 W
待機時消費電力	6.5 W
寸法	217 × 88 × 297 mm (幅 × 高さ × 奥行)
質量	2.6 kg

\* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご利用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- **保証期間**  
お買上げ日より1年間です。
  - **保証期間中の修理**  
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
  - **保証期間が過ぎているとき**  
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
  - **修理料金の仕組み**
    - ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
    - ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
    - ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
  - **補修用性能部品の最低保有期間**  
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
  - **持ち込み修理のお願い**  
故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
  - **製品の状態は詳しく**  
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。
  - **スピーカーの修理**  
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
  - **摩耗部品の交換について**  
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご利用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。  
**摩耗部品の一例**  
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など
- ※ このページは、安全にご利用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## ■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

### お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

## ■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内  
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7  
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内  
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



## ★永年ご使用のAV製品の点検を!

### こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>